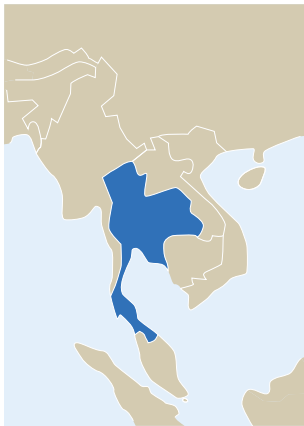


個別事後評価

外部評価者：大平 哲／高梨 和紘

総合評価 **B** 貧困削減への支援



① タイ

農業セクターローン

灌漑整備や組合活性化プロジェクトを通じて
農民の協調行動を促す

承諾額／実行額 360億円／180億円
借款契約調印 1999年9月
借款契約条件 金利1%、返済25年(うち据置7年)、一般アンタイト
貸付完了 2005年1月
実施機関 農業協同組合省 URL: <http://www.moac.go.th/builder/moac/eng/>



本事業の目的

通貨危機に見舞われたタイの経済回復に対する緊急支援として役立つ可能性も視野に入れながらアジア開発銀行と協調して円借款を供与し、タイ全土において見返り資金を利用した農業セクター改革事業を行うことにより、農民の協調行動の促進をはかり、同セクターの体質強化に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **a**

本事業では灌漑水路の整備を実施しており、灌漑面積、灌漑効率等は概ね計画以上の成果が達成されている。また、本事業の対象となった組合では、対象外の組合に比べ組合員数が増加しており、組合活動の活性化がうかがわれる。本事業の長期的な目標は農民の協調行動を通じて、農産物の取引条件を改善することにある。取引条件の改善は現時点では明確ではないが、水利・農民組合の集会所が情報センターとして機能している例が散見されており、協調行動を促す環境が形成されつつある。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **b**

本事業の実施は事後評価時において、国家計画と一部合致しない点があったものの、灌漑整備のニーズは高く、概ね事業実施の妥当性は高い。通貨危機対応を念頭に置き、短期間

での貸付実行を前提とした本事業は、受益者との対話を重視し調整に時間をかけるセクター政策と合致しなかった。また、タクシン政権下の援助削減政策もあり、第2回目の貸付け(180億円)は実施されなかった。

事業実施の経済性(効率性) **b**

本事業は、事業費についてはほぼ計画通りであったものの、期間が計画を上回った(計画比123%)ため、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延のおもな要因としては、計画変更や用地取得が難航したことが挙げられる。

今後の展望(持続性) **a**

本事業は実施機関の能力および維持管理ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。実施機関は十分な技術・経験を有しており、地方支部と水利組合、地方支部と中央の部局の連携は緊密に行っている。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。本事業の教訓として、参加型案件においては受益者との調整に時間をかけること、見返り資金の案件監理のモニタリング強化が挙げられる。参加型案件の実施にあたってはJBIC自身も関係者との対話を重視し、事業効果である農民の所得水準把握のためにデータ収集を強化することが望ましい。



本事業が支援した
精米工場

組合員の増減(2006年組合員数／2000年組合員数)

	組合員増加10%以上	組合員増加10%未満
本事業の対象組合	59.9% (97組合)	40.1% (65組合)
本事業の非対象組合	48.9% (1,187組合)	51.0% (1,239組合)

対象組合数:162、非対象組合:2,428

開発途上国専門家の意見

農業生産・流通に関するデータの蓄積は、農村開発の効果を高めるだろう。農民は自ら水資源管理を進めており、農業収入改善のための情報収集を始めている。

専門家の氏名: Mr. Narong Pomlaktong (学者)
クイーンズランド大学博士(経済)。現在、タイ開発経済研究所上級研究員。専門は人材資源開発と社会開発。